



2020年度

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価について

幼保連携型認定こども園における教育及び保育は、乳幼児期全体を通じて、その特徴及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めなければなりません。

油津オアシスこども園では、保育教育理念として

『笑顔で優しく しっかり抱いて ゆっくりおろして歩かせよ』

(愛情をいっぱいそそぎ、個々をしっかりと見つめふれ合い、自立へと心豊かに生きる力を育む)

を目指して様々な活動に取り組んでいます。

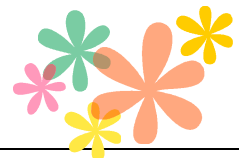
その活動の質を高め充実させていくために、上記のことを踏まえ、令和2年度自己評価として幼保連携型認定こども園保育・教育要領に基づく自己評価を行いました。

評価の目的として

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、こどもの最善の利益を実現するために行います。
- (2) 現在行っている教育・保育を様々な観点から見直す手段とします。
- (3) 現状を把握し、次の手立てを考え、実行につなげます。
- (4) 一つ一つの項目の意味を自園の立場から理解し、問い直し、さらなる教育・保育・子育て支援等の質の向上につなげます。

評価の方法として

- (1) 子どもを評価するのではなく、保育者自身の保育または園の状況进行评估します。
- (2) 「評価項目」で描かれた姿や子どもが育つよう、実際の保育や環境や体制がどのようにデザインされて実施されているかを評価します。
- (3) 5段階評価をし、データグラフでまとめます。
- (4) 以下の6つの項目にわけてまとめます。
 - ①乳幼児期の園児の保育
 - ②満1歳以上満3歳未満の園児の保育
 - ③教育保育の実践に関わる配慮事項
 - ④健康及び安全
 - ⑤子育ての支援
 - ⑥職員の資質向上



別紙に自己評価の報告をさせていただきます。職員間でミーティングを重ね、子どもたちの未来のために私たちが取り組んでいくべきことを、今後さらに話し合い考えていこうと思います。「自己評価」の結果を基に、園児ひとり一人の理解を深め、油津オアシスこども園の職員の質と、子どもたちへの保育・教育の質を更に高めていきたいと思ひます。

令和2 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和3年1月10日

法人名

園 名

吾田学園 しあわせ小規模保育施設

油津オアシスこども園

まとめ

全体平均

4.03

第2章第2節

乳児期の園児の保育

優しいまなざしや穏やかな語りかけを心がけて、うれしい会話からほほえみ合いが生まれるような雰囲気作りに努めてきた。会話を通して幼児が安心して過ごせる環境をつくり保育者との信頼関係を深めていけるように努めている。オムツ替えや着替え時は、保育者が幼児と1対1になれる貴重な時間として丁寧に接し大切にしている。活動においては、風や心地よい音楽、光りや影など、幼児が身近に感じる事のできるものを通して発達を促すよう考えてきたが、更なる工夫をしていきたい。人格のある一人の人間として認め丁寧に関わっていききたい。

第2章第3節

満1歳以上満3歳未満の園児の保育

親しみの心が芽生えるように、幼児の欲求や言葉を優しく受け入れるような姿勢で臨んでいる。また、幼児ひとり一人の欲求や思いに違いがあることを認識し、それに沿った関わり方をするように心がけてきた。小さな異年齢グループで遊んだり、年長児が小さい子のお世話をすすんでできるように、園全体の生活の時間帯を見直したり空間を自由に行き来できるように工夫している。幼児が安心して自分の思いを伝えられるような雰囲気作りのために、笑顔や優しい口調、そして保育者の身なりにも気を配っていききたい。

第2章第4節

満3歳以上の園児の教育及び保育

該当無し

第2章第5節

教育及び保育の実践に関わる配慮事項

乳児の生活の24時間を視野に入れて、家庭との連携を図っている。送迎時の保護者とのやりとりにおいては、保護者の話を聴く姿勢を大切にしている。子育てに関する悩みや相談等、保護者の子育てに対する思いを共有して信頼関係を深めていきたい。幼児が新しい生活に不安を感じないように保護者同伴の慣らし保育を今後も丁寧に行っていきたい。幼児の思いを尊重し、その思いに沿うことが出来るように、これまでの慣例にとらわれることなく保育者自身が考えて行動していけるよう意識していききたい。

第3章

健康及び安全

食事を美味しく食べるために、空腹を感じるくらい自由に思い切り遊びを楽しむことを大切にしている。日差しや風が心地よい季節は外でのランチやおやつを楽しんでいる。心身共に心地よい環境作りに努めてきた。海の近くにある園であるため、地震津波に対する保護者の不安がある。そこで、有事には地域の方々の協力を得て園児を避難させるよう連携をとり訓練を行っている。商店街の中にある園であるため常に地域に見守られているという安心感があり、職員の意識として有事に対する緊張感があまりないように感じる。大切な命を預かる身として改めて意識していこうと思った。

第4章

子育ての支援

喜びと希望をもって日々の子育てを楽しむことができるように、保護者の思いを尊重し日々の送迎時の会話の時間を大切にしている。子どもの成長を見守りながら共に考え学んでいく姿勢をもちたいと感じている。保護者のニーズに応えながら子育て支援カフェを開催している。子育て世代にとって必要なサロンであると感じている。安心して子育てができるよう支援を続けていくと共に、保護者の主体的な活動を支えていけるよう、今後更に利用者との信頼を深めていけるように努めたい。

第5章

職員の資質向上

保育の質の向上のためには、保育者の人間性と自覚が大切であることを認識し、保育者も常に学び続ける姿勢を持ちたい。コロナ禍で制約のある中ではあるが、今できることとして具体的には保育の原点である「倉橋惣三」や「エレン・ケイ」の書物を基本に職員間で読み込んでいきたい。オンラインでのレクチャー受講等を通して、保育者の視野を広げ保育のフィロソフィーについて園内研修で考えていきたい。

総合

評価をとおして「笑顔で優しく しっかり抱いて ゆっくりおろして 歩かせよ」の保育理念のもと、温かな昼間の家庭として保育を行ってきたかということ意識しながら振り返りができた。幼児の思いを尊重し、幼児が自ら主体的に活動ができるようにするには、具体的にどのようにすればよいかということを考える機会となった。保育者に優しく見守られながら、子どもたちが喜びに満ちた日々を送れるようにするために、私たちは保育・教育要領を深く理解していく責任があると感じた。職員の資質向上のために今後は研修の充実を図っていききたい。また子育て支援カフェを通じて、子育て支援の必要性を強く感じ、更なる充実と内容の工夫をしていきたいと感じている。小規模保育施設はゆとりのある職員配置であるため、きめ細かな保育の実践が可能となり高い評価を得ることができたと感じている。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.07
「3歳未満児保育」	32	4.06
「3歳以上児保育」	0	#DIV/0!
「教育保育の配慮事項」	16	4.00
「健康・安全」	29	4.03
「子育ての支援」	13	4.15
「職員の資質向上」	9	3.67
計	114	4.03

データグラフ

